

公害教育研究会を開催しました

「公害経験の継承と公害資料館 —四日市を事例として—」



会場報告 (清水万由子さん)

オンラインで三重県と (伊藤三男さん)

日 時：2022年8月28日（日）14時～16時
場 所：東京農工大学（東京都府中市） 参加者：20名
オンラインゲスト：伊藤三男さん（四日市再生「公害市民塾」／高校非常勤講師）
会場ゲスト：清水万由子さん（龍谷大学・公害資料館ネットワーク幹事）、
神長唯さん（都留文科大学・公害教育研究会幹事・公害資料館ネットワーク幹事）

公害資料館ネットワークの「教育研究会」は日本環境教育学会の「公害教育研究会」と連携しています。2022年8月に開催された日本環境教育学会第33回年次大会の際に開かれた「公害教育研究会」の開催報告です。

公害教育研究会開催記録

都留文科大学・公害教育研究会幹事・
公害資料館ネットワーク幹事 神長唯

日本環境教育学会の常設研究会の一つ「公害教育」研究会（代表：高田研）は会場と三重県をオンラインで繋ぐハイブリッド方式で実施した。

今回、「公害経験の継承と公害資料館—四日市を事例として—」をテーマに『公害スタディーズ』（2021、ころから）の「公害資料館への招待」執筆者の清水万由子さん（理論編）×神長唯（実践編）、同書に写真提供した伊藤三男さんをゲストに迎えた。

2022年7月は四日市公害訴訟判決50周年という大きな節目であった。2015年に開館した「四日市公害と環境未来館」は、市立の公害資料館である。「語り部」として当時を伝える人材が少なくなっている。公害資料館が果たすべき役割はますます大きくなっている。次世代に公害の教訓を繋ぐという観点から、今回は四日市のケースを取り上げた。



開催趣旨を説明する筆者（左）と司会の古里貴士さん（右）

まず、「四日市大学における教育実践」として、地元高等教育機関による公害資料館を活用した教育実践例を紹介した。大学生の想像力や共感力を育む上での現状と課題を共有した（神長）。

続いて、「公害資料館ネットワーク」設立時より関わる清水さんより「公害資料館を未来に向けて

活用するために」と題し、公害資料館がもつ効力を説明いただいた。「生乾きの過去」である、過去になりきっていない今だからこそ様々な当事者から話が聴けるタイミングであると力説された。

いわば公害「非体験世代」2名の話を受け、最後に伊藤三男さんより支援者として反公害運動に関わってきた立場からお話をいただいた。

伊藤さんら若者による「市民兵の会」の被害者支

援活動の様子をおさめた半世紀前の貴重な写真もスクリーンに大写しにして解説された。画期的とされた「米本判決」の精神が果たして今に活かされているのか、コロナ禍で問われる「経済か命か」が当時すでに判決内で指摘されていた点を改めて確認し、現代社会に警鐘を鳴らした。公害は終わっていない、という証左である。

書籍紹介

青空のむこうがわ 四日市公害訴訟判決50年—反公害を語り継ぐ—

伊藤三男著 風媒社 2022年（1800円+税）



判決から半世紀、2022年7月24日に出版されたのが本書である。著者は、高校教師の傍ら、当時から支援者として関わり続けており、現在も四日市再生「公害市民塾」の一人として四日市公害を語り継ぐ活動を続けている。前半は「I 四日市公害との戦い」、「II 判決以後50年に起きたこと」、「III 四日市再生のために」の3部構成で50年を振り返る。後半は原告の故・野田之一との対話や、「四日市公害と環境未来館」の設立には欠かせない存在である四日市公害の「記録者」故・澤井余志郎の生涯を振り返る「よしろう小伝」などが掲載された、必読の書である。（神長）